



©Yuki Asada

切り株から生まれ変わった木工製品

ケニアの首都ナイロビから車で約3時間、ケニア山のふもとの町ニヤフルル。赤道直下にもかかわらず標高が高く、一年を通じて冷涼。森林資源にも恵まれ、古くから木材加工が盛んな地域として知られている。

この緑豊かな町に、知る人ぞ知る老舗の家具屋がある。最初は兄弟3人で立ち上げた小さな会社だったが、今では30人の職人を抱える大所帯に。その技術の高さから地域の人たちの信頼も厚く、連日注文が後を絶たないほどだ。

そんな彼らが、新たなビジネスチャンスをつかもうと、数年前からある挑戦を始めている。それは、これまで捨てられていた木の“切り株”を原料に木工製

品を作ること。これまでは薪^{まき}くらいにししか使われてこなかった部分だが、職人の手にかかれば、どんな形の切り株もお手のもの。あっという間に、テーブル、椅子、タンス、小物入れ、お皿などに姿を変えていく。

さらに最近では、JICAの研修を通じて学んだノウハウを携え、生産コストや市場展開などの分析を重ねた上で事業計画を練り、アフリカの近隣国から買い付けが来るほどまでにビジネスが拡大している。

ケニアの家具職人の手によって生まれ変わった味わいのある木工製品。仕事に懸ける彼らの自信と誇りからか、どれを見ても力強さを感じる。



職人の手にかかれば、大きな切り株もあっという間に木工製品に

★切り株のお皿を1人にプレゼント!→詳細は38ページへ

